

大望をいだく河童

坂口安吾

青空文庫

昔、池袋にすんでいたころ、小学校の生徒に頻りに敬礼されて、その界限を遠廻りに敬遠して歩かねばならなくなったが、僕に似た先生がいたに相違ない。

戦争中、神田の創元社へよく遊びにでかけたが、日大生に時々敬礼された。何先生が僕に似ているのか気にかかった。

まだ焼けて幾日にもならぬ高田馬場駅で、夜であったが、軍服の青年（将校らしい）に挨拶され、第二高等学院の何々先生ではありませんか、とこれは明らかに名前を言われたのだが、忘れてしまった。間違われて挨拶を受けるのはキマリの悪いもので、蒲

田の易者は僕が手をだすと、

「旦那からかつちやアいけませんや」という。本職の名人と思つてるのか、蒲田の顔役に似た旦那がいるのかも知れぬ。

井伏鱒二村長がキイキイ声で、

「ヤイ安吾、貴様、けしからんぞ」

「なぜ」

「銀座を歩いていたらう。ヤイ、安吾、僕がうしろから背中をたたいたら、新田潤じやそうじやないか。恥をかいた。よく似とる。けしからんぞ、こら」

後日浅草のお好み焼き屋で新田潤にはじめて会ったが、似ているものか。

中村地平と僕が一緒に歩くと、どちらが兄さんですか、ときか
れたことが二三度あったが、似ていると直覚すると誰でも似て見
えてしまうのだろう。中村君と僕は眉の濃く太いのが共通してい
た。

むかし小林秀雄は酔っ払うと僕に向って、ヤイ、河童、と言っ
た。髪の毛が額にたれるせいだろう。

僕は然し、奇妙なことを言う奴だ、お前の方がよっぽど河童に
似てるじゃないか、河童の絵を見ろ、とんがったクチバシと、三
角にすぼまったアゴと、小林によく似てら。

「ヤイ、河童」

「変なことを言うな。お前の顔がオレに映って見えるんじゃない

のか」

「なんでい、河童」

わけの分らん男だ。だから彼を独断家と称するのである。

時々くる雑誌記者がある日、すこしモジモジして、先生、実はよく似た人がいるんです、と言う。

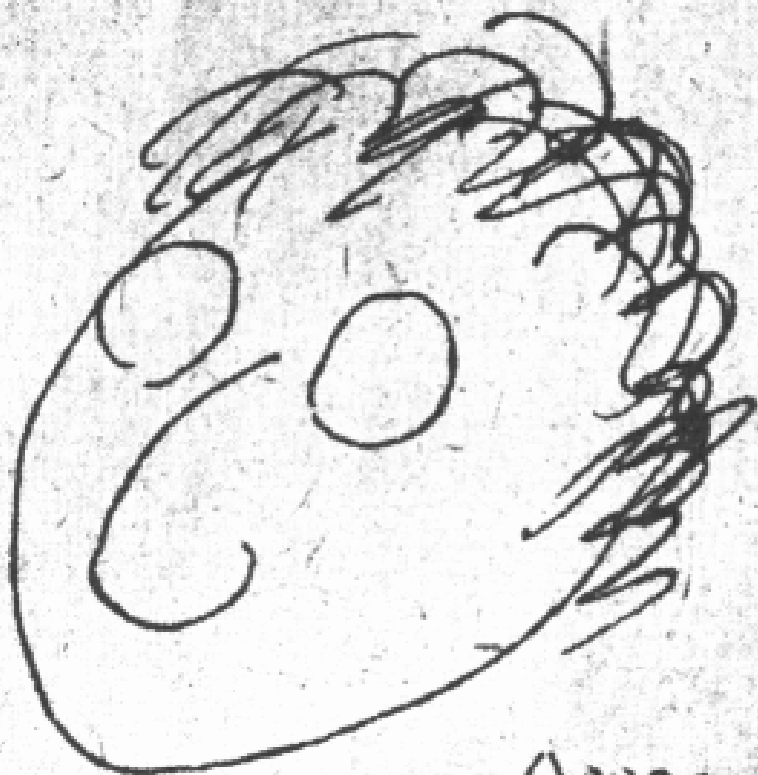
「誰に？」

「ハア、実は、僕の郷里の乞食ですけど」

僕はギャフンとしたが、やむなく心を励まして、

「どこんところが似ていた？」

「どことって瓜二つですけど、なんとなく大望をいだく様子がソックリですね」



Argo

だから僕はジャーナリストに会いたくないのだ。礼節を知らないのである。

青空文庫情報

底本：「坂口安吾全集 05」筑摩書房

1998（平成10）年6月20日初版第1刷発行

底本の親本：「アサヒグラフ 第四八卷第三号」

1947（昭和22）年7月16日発行

初出：「アサヒグラフ 第四八卷第三号」

1947（昭和22）年7月16日発行

※初出時の表題は「自画像展覧会（その十七）」です。

入力：tatsuki

校正：藤原朔也

2008年5月10日作成

2016年4月15日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

大望をいだく河童

坂口安吾

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>